＜様式１＞

令和３年度　さいたま市立芝川小学校　自己評価書

校長　　佐藤　利春　印

さいたま市立芝川小学校長之印

１　学校で設定した「令和３年度の目標」及び関係する「評価項目」について

（１）教育目標　　かしこく・ただしく・たくましく・ゆたかに

（２）関係する評価項目

①きめ細やかな学習指導・効果的な指導（かしこく）**→各教科等の授業の状況**

②礼儀正しくけじめのある生活態度の育成（ただしく）**→生徒指導**

③児童の体力を伸ばすための適切な指導（たくましく）**→体力向上**

④人権を尊重し、友達と仲良く生活する取組（ゆたかに）**→いじめ防止等**

⑤児童理解を深め、一人ひとりを大切にした学校・学年・学級づくり**→いじめ防止等**

⑥学校内外での児童の安全対策や危険防止のための指導**→児童の安全・安心**

⑦特色ある教育活動**→特色ある学校**

⑧学校公開、学校行事等の設定による保護者・地域との相互理解**→地域との連携**

⑨児童や保護者が相談しやすい環境の整備**→教育相談、いじめ防止等（新設）**

⑩教職員が自己の業務改善目標を設定することによるワーク・ライフ・バランスの充実
→働き方改革（新設）

２　評価結果について

上記①～⑨項目では、地域・保護者から肯定的な評価が概ね９割あった。保護者は、⑧が他と比べ低かった。アンケートを実施した時期に授業参観が開催できていなかったことが大きい。記述では、行事の動画配信への好意的なものが多かった。

教職員では、昨年はどの項目も「３だいたいそう思う」としていたものが、今回「４そう思う」が２～６割、「２あまりそう思わない」が増えた項目があった。教育活動が再開する中、実施できた活動とできなかった活動があり、教職員の課題意識がはっきりしてきたものと考えられる。特に、保護者・児童が項目①②⑦に９割の肯定的評価を付けている一方、教職員は課題を感じている。働き方改革を目指して始業時刻を早めたことで業前の学習活動ができなくなったこと、毎年課題として上がっている挨拶や廊下歩行、感染拡大防止のため工夫が必要な特別活動・清掃・ホタル飼育について評価が低かった。

今年度から、Forms を活用した評価を実施した。このため、児童の自由記述に、これまでにない 220 名の回答があった。どれも学校をよくしていくための前向きな意見であった。

３　次年度に向けた具体的な改善策について

①令和４年度道徳教育研究発表に向け、「自己肯定感・自己有用感」を高める学級経営・学習指導を継続するとともに、ICT を活用した学びの改革をさらに進め、個別最適化を図りながら基礎学力の向上を図る。

②挨拶や廊下歩行は、児童からも多くの意見が挙げられている。廊下歩行については、早速 12 月の代表委員会で児童からの発案で取り上げ、キャンペーンを実施し、めあてを守った児童の割合が 20%増加した。今後も児童自身が問題提起・企画・実践することで意識を高めていけるよう、指導・支援していく。

③感染症対応で、学校教育活動の見直しが必要になっている。この２年間の状況をもとに、令和４年度学校行事予定を策定する。また、PTA と連携し、感染症対応しながら特色ある教育活動のための環境づくりを行う。